

第19回「私の愛する一点展」に寄せて

梅野記念絵画館友の会 会長 秋山 功

今年もまた、「私の愛する一点展」の季節がやって参りました。東御市の花岡利夫市長は、梅野隆前館長が考えたこの斬新な企画をいつも挨拶の中で褒めてくださいます。実際、一銭のお金もかからず、全国のコレクターが持っている自慢の一品を提供してもらい展覧会が開催できるのですから、予算の厳しい美術館にとっては夢のような企画です。また、参観者数が問われる今の世の中では、唯一参観者の数が期待できる優良な展覧会でもあります。それは、美術館だけでなく、コレクターにとっても死蔵されがちな自慢の一品が、たくさんの人たちに見てもらえるのですから、コレクターの自己実現の場に留まらず、社会貢献にもつながっています。また、日頃評価される機会の少ない出品作家にとっても、その顕彰につながるわけですから一石二鳥どころか、一石三鳥にも一石四鳥にもなり、将に卓越したアイデアといえるでしょう。

さて、この展覧会は、例年梅野隆前館長の遺徳を偲び、志を引き継ぐために命日である7月に開催されておりますが、さらにその業績を顕彰するものとして、木雨賞（木雨は梅野隆さんの号）が制定されました。早いもので今年は第6回となり、本年度は荒井龍男などの作品を顕彰し続けている野原宏さんに決定しました。野原さんは、全国のコレクターの団体であるアート・わの会の理事長としても、長く美術を通じた社会貢献活動を実践されてきた方です。所有する作品も全国の美術館で開催される展覧会に数多く貸し出しをされています。

また、今年も特別賞が検討され、私の愛する1点展では横井弘三作品を出品し顕彰してきた尾崎誉さんに決定しました。尾崎さんは、友の会のオークションにも数多くの作品を提供し、時には落札された作品の全額を友の会に寄付して下さるなど、友の会にとっても貢献者です。特別賞にふさわしい人物として決定しました。

さらに、今年も現存物故を問わずその年に出品された作品の中から、選考委員会とは別に有志の幹事が自分の目で見てもよかったと思う作品に幹事賞という個人賞を与えています。副賞は、東御市自慢の農産物や特産物などが与えられ展覧会を盛り上げてくれます。

ともあれ、今年度も全国の会員の皆様を選んだ名品が数多く出品されますので、多くの方々のご高覧を賜りますようお願い申し上げます。

出品作家一覧

青山義雄、青山博之、芥川麟太郎、安倍直人、池田淑人、池部鈞、石野容三、猪熊昇、今井俊満、上田泰江、梅野亮、浦久保義信、小笠原亮一、小倉尚人、オノトシノブ、笠木次郎吉、北村正信、鬼頭曄、木下晋、桑山忠明、廣本季與丸、近藤克美、蔡國華、坂口右左視、寒河江智果、櫻井陽司、佐藤徹、佐藤武造、島村洋二郎、ジル・サックシク、曾根カナエ、田島隆夫、棚橋文子、坪内節太郎、冬青小林勇、トナスカボチャラダムス、富樫寅平、名嶋憲児、西嶋豊彦、西村俊郎、西脇順三郎、西村輝昌、のむら清六、長谷川利行、浜田浄、林司馬、桶勝朋巳、東白陵、秀島由己男、平澤喜之助、藤山ハン、藤森武、星崎孝之介、堀口泰造、南薫造、宮坂房衛、茂木亘、森仁志、柳沢淑郎、横井礼以、わたなべゆう

